

記 入 日 2014年1月17日

1. 概 要

実践団体名	港区立お台場学園港陽中学校		
連絡先	03-5500-2575		
プランタイトル	私たちが守る地域 お台場		
プランの対象者※1	中学生 保護者 PTA 地域住民	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

お台場は、昼間多くの大人が仕事で外に出ているため、中学生が地域防災の担い手の一員として、その活躍が期待されている。そこで、中学生全員で構成する「お台場学園防災Jr. ティーム」を組織し、災害発生時に適切に活動できるよう、日常的に訓練を実施している。

目的としては、中学生が防災の意識を高め、より充実した防災訓練・活動を行えるようになることや、中学生が主体となって地域住民に働きかけ、適切な防災活動ができるようになることである。

【プランの概要】

- ・被災地の現状を知るため、東日本大震災で被災地となった場所に生徒及び教員を派遣する。
- ・震災を体験した現地の中学生や教員、教育委員会の方と会談することによって、防災に対するノウハウや、離れている地域に期待していることなどの生の声を聞き、防災について学ぶ機会とする。
- ・学んだことを台場地域に広めるとともに、自分たちで何ができるのかを考え、地域住民に提言する。
- ・自主的に防災活動に取り組む生徒を育成する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

現在、震災の報道が少なくなり、東日本大震災の記憶が希薄になりつつある。事実、生徒自身もテレビを通じて当時の様子を知るのみであり、それが防災訓練に対する意識の低下表れていた。しかし、被災地を実際に訪れることで被害の大きさを目の当たりにし、防災に対する意識の向上につなげる。他の生徒や地域住民と情報を共有することで、地域が一体となった防災活動を展開できるようにする。

2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	防災 Jr. チーム年度 計画立案	芝浦港南支所と打ち合 わせ	
5 月	被災地訪問実施計 画立案	岩手県教育委員会と打 ち合わせ	
6 月			
7 月	被災地訪問事前学 習	東日本大震災について 調べ学習	救急救命講習会
8 月		Jr. チーム OB 会設立に 向けて検討会	岩手県被災地訪問 Jr. チーム OB 会設立
9 月	被災地訪問まとめ 道徳授業計画	道徳指導案作成	道徳：命の大切さ 第 1 回 Jr. チーム訓練
10 月		学芸発表会に向けた資 料収集	第 2 回 Jr. チーム訓練
11 月			第 3 回 Jr. チーム訓練 学芸発表会 港区総合防災訓練参加
12 月		防災まちあるき準備	
1 月			防災まちあるき 防災 MAP 作成
2 月			
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：①】※3

タイトル	救急救命講習会
実施月日（曜日）	7月2日（火）
実施場所	本校アリーナ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：芝消防署 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4×50分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	対外対応能力の育成
達成目標	救命技能認定証の取得
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・東京救急協会の方に来ていただき、普通救命講習をしていただく。 ・救急救命の意義や、AEDの扱い方、心肺蘇生法などを学ぶ。 ・本校8学年全員が救命技能認定証を取得。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・東京救急協会の方 ・訓練用AED、人形
参加人数	20名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 8学年全員が救命技能認定証を取得</p> <p>【課題】 身に付けた技能を反復して練習する機会がない</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：②】※3

タイトル	岩手県被災地訪問
実施月日（曜日）	8月9日（金）～8月11日（日）
実施場所	岩手県宮古市
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：佐々木 寿洋 他 所属・役職等：岩手県教育委員会事務局 他
所要時間または「コマ数×単位時間」	3日間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	岩手県の現状を知り、防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県宮古市田老地区へ生徒2名、教員1名を派遣し、岩手県の現状と、東日本大震災の様子を知る。 ・現地の中学生と交流し、防災に向けて何が必要なのか、震災を体験してどういう思いでいるのかを聞き、今後の活動に活かす。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県教育委員会事務局 ・宮古市立田老第一中学校 ・宮古市立宮古第一中学校
参加人数	3名
経費の総額・内訳概要	10万円（交通費・宿泊費 等）
成果と課題	<p>【成果】 テレビの映像のみしか、東日本大震災を知らない生徒たちにとって、現地を訪れたによって防災への意識が高まった。</p> <p>【課題】 訪問したことを伝える機会の設定</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：③】※3

タイトル	防災 Jr. チーム 0B 会設立
実施月日（曜日）	8月24日（土）
実施場所	お台場地域
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：芝浦港南総合支所 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	Jr. チーム時に培った防災知識を生かし、地域の防災力を高める
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・芝浦港南支所を中心に地域に呼びかける ・地域の祭りなどで参加を呼び掛ける ・卒業時に、卒業生に呼びかける
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	10名弱
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 地域の防災意識を高めることに寄与した</p> <p>【課題】 組織人数を増やすこと</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：④】 ※3

タイトル	防災 Jr. チーム訓練・港区総合防災訓練参加
実施月日（曜日）	9月5日、10月8日、11月12日
実施場所	本校 校庭及び校舎
担当者または講師	担当者・講師等の区分：芝浦港南支所 氏 名：山本 智 他4名 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3×50分
プログラムの カテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	各班に分かれて、災害時における避難所運営の技能を身に付ける
実践方法・進め方 （簡条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・本校中学生を、設営・搬送班、食糧班、応急救護班・消火班・放送班、災害対策本部班に分ける。 ・各担当者の指導の下、簡易担架の作成や消火器の取り扱い、炊き出し訓練を行い、技能の習得を図る。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	港区芝浦港南支所
参加人数	65名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 緊急時における対応について、技能の習得ができ、総合防災訓練では指導役として参加することができた</p> <p>【課題】 毎年、ローテーションできるよう班編成をしても、すべての班での訓練を実施できない</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：⑤】※3

タイトル	「あの日、あの時、そしてこれから」
実施月日（曜日）	11月1日（金）2日（土）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：佐々木 寿麻 他 所属・役職等：お台場学園港陽中学校 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2日間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	岩手県被災地訪問の成果を発表するとともに、地域の防災意識を高める啓発を行う
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> 本校の学芸発表会の劇において、東日本大震災をテーマにした劇を演じる。 劇の終盤に「今、私たちがするべきこと」を生徒が主張し、地域全体が防災意識を高めていかなければいけないことを啓発する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 宮古市立田老第一中学校 津波体験作文集「いのち」 震災直後の写真・映像（提供：田老第一中学校）
参加人数	本学園 児童・生徒、地域住民
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】 劇を通じて、地域に防災意識の向上の必要性等を伝えることができた</p> <p>【課題】 発表の場を、広めてほしいという保護者からの意見があった</p>
成果物	学芸発表会 DVD

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：⑥】※3

タイトル	防災まちあるき・防災マップ作成
実施月日（曜日）	1月7日（火）
実施場所	お台場地域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：山本 所属・役職等：芝浦港南支所
所要時間または「コマ数×単位時間」	1日
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	地域の備蓄倉庫や消火栓の防災に関する器材の場所を確認する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・台場地域の備蓄倉庫の場所の確認などを地域住民、Jr. チーム OB 会などと一緒にを行う
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・芝浦港南支所 ・アクアシティお台場 など
参加人数	11名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 地域の防災に関することについて、深めることができた 【課題】 倉庫の中身などもわかるようにし、全員に周知させる
成果物	防災マップ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○主体性ある防災訓練へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災 Jr. チームの訓練が、毎年同様の内容になってきて生徒の真剣さがかけてきた。震災を身近なものとして捉えるようにするための働きかけが苦勞した。 <p>○岩手県被災地訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車やバスの運行本数が限られているため、訪問先でのスケジュールを決めるのに苦勞した。中学生との交流もできる限り当時の様子や内容を聞くことができるように、訪問校の教員と話し合い質問内容を工夫した。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○岩手県教育委員会及び、訪問先とのやり取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を連れての被災地訪問を受け入れていただける学校が少なかった。精神的なケアを要する生徒がいるためである。質問事項にも注意しなければならなかった。 ・当時の様子を伝えてくれる「語り部」は、震災直後は無償でやっていたが、現在は有料であった。詳しく知るためにも依頼したかったが、予算の都合上実施ができなかった。 ・訪問先との日程の調整に苦勞した。夏休み中の実施で、本校では夏季学園が休業中にあり、岩手県では県中総体の準備や実施で忙しい中で、日程を組んでいただいた。移動に時間もかかり、限られた予算での実施となると、日程的にも苦勞した。 <p>○学芸発表会 台本づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮古市立田老第一中学校に作文集や映像の提供など、全面協力していただいた。当時の様子を伝えられるように、スライドを背景として投影した。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○学芸発表会に対する生徒の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災をテーマにした劇にすると発表したとき、生徒たちの中には「重いテーマで嫌だ」「演じ切れるか不安」などという思いがあり、前向きに取り組むができなかった。しかし、自分たちがその劇を演じることの意義を自覚してからは、熱心に取り組むようになり、保護者の中には涙を流す人もおり、生徒たちのメッセージが伝わり達成感のあるものになった。準備段階を通して、生徒のモチベーションを高めるのに大変苦勞した。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	岩手県教育委員会事務局 宮古市立田老第一中学校 宮古市立宮古第一中学校 本校防災 Jr. チーム OB 会	被災地訪問 学芸発表会資料提供 総合防災訓練補助・指導
保護者・ PTAの組織	PTA	総合防災訓練参加・連携
地域組織	お台場地区防災協議会	総合防災訓練参加・連携
国・地方公共団体・ 公共施設	芝浦港南支所 東京都防災隣組	総合防災訓練参加・連携 認定団体へ Jr. チームの活動の周知
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>被災地訪問の報告を兼ねて、道徳の時間に「命の大切さ」についての授業を行った。改めて、震災の恐ろしさや、生きている意味、防災訓練の意義について考える機会となった。また、現地の人達の「東日本大震災のことを忘れないでほしい」という願いにもつながった。</p> <p>この授業を発展させ、本校の学芸発表会において、東日本大震災をテーマにした劇を演じた。この劇では、今後、自分たちがどのような姿勢で防災訓練に参加すべきか、地域の一員として何ができるのかを提言する場面があり、この被災地訪問で得たものを広める機会となった。児童、生徒からは「忘れかけていたものを思い出すことができた」保護者からは「とても感動的で大人も考えさせられる内容であった」などの感想をいただいた。</p> <p>その後、区の防災訓練に対する生徒の意識や姿勢も変化した。特に、地震や火災における総合訓練では、参加している児童・生徒も真剣な態度で臨んでいた。また、地域の備蓄倉庫などを確認する活動にも積極的に参加する生徒が増えてきた。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>被災地を訪問し、震災を体験をした方々と対談することで、防災意識の向上に大きく寄与した。学んだことも地域に広めることができ、今回のプランの目的は達成できた。防災訓練においては、機器の取り扱い方に関する知識や技能の習得は達成できたが、それらがしまわれている備蓄倉庫が学校や地域のどこにあるのかを把握できていないことが課題として明らかになった。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>被災地には、継続して訪問し、復興の様子を調べ地元へ報告していきたい。また、児童・生徒や地域住民も迅速な対応ができるように、備蓄倉庫などの場所と倉庫内の物品を一覧にしたマップの作成を働きかけたい。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

救急救命講習会



- ・人命の尊さや人助けの意義、大切さなどを改めて学んだ。
- ・AEDを使用した心肺蘇生法、人工呼吸の方法などを学んだ。

被災地訪問



- ・現在の Jr. チームの訓練では、震災後の救援活動に重点を置いて訓練している。
- ・着衣水泳訓練など、水害への対応も必要ではないかと感じた。
- ・現地の生徒との対談のなかで、「街はたくさんの支援のおかげで、復興してきているが、今一番求めているのは、震災を忘れないでほしいこと」という言葉を聞き、私たちがお台場という地で出来ることではないかと感じた。

防災 Jr. チーム訓練・港区総合防災訓練参加



- ・今年度も、設営班、食糧班、応急救護班、消火班に分かれて訓練を実施した。放送班、対策本部班も組織し、緊急時に各班が連携して対応できるような訓練も実施した。その際、Jr. チームOB会が指導役として協力してくれた。
- ・訓練で使用する器材が、あらかじめ用意されている状態からの訓練開始になっているので、備蓄倉庫から持ってくるという訓練の必要性を感じた。

(自由記述: 1/3)



学芸発表会「あの日、あの時、そしてこれから」



- ・「いのち～宮古市立田老第一中学校 津波体験作文集～」の生徒の作文をもとに、当時の様子を再現する劇を演じた。被災地訪問に行った生徒を中心に、今後、私たちがすべきことを学級で話し合った。その内容を劇の終盤に鑑賞している児童・生徒、地域の方々に向けて提言した。
- ・劇を現実感あるものにするため、田老第一中学校に資料や映像の提供等、全面協力していただいた。
- ・児童・生徒だけでなく、保護者からも「すごく良い内容だった。改めて防災について考えさせられた。」という意見をいただいた。中には、この学芸発表会だけではもったいないから、是非、他の中学校や地域でも演じてほしいという意見もいただいた。
- ・この後、生徒の防災に対する意識が向上した。避難訓練時には、予告なしでの訓練を行い、自分たちで状況を判断し、ヘルメットをかぶったり、最短ルートで避難したり、速やかに行動することができた。

防災まちあるき



- ・芝浦港南支所、地域住民、防災 Jr. チーム、Jr. チーム OB 会、PTA でお台場の備蓄倉庫や消火器などの防災機器の場所を見学して歩いた。
- ・その後、どこに防災設備・防災機器があるかを一覧しにしたマップを作成した。
- ・今後、さらに発展させ「どこに・何が・いくつあるのか」という詳細までまとめたものを作成し、児童・生徒および地域住民に周知させていき、地域の防災意識の向上と緊急時における対応力の向上に働きかけていきたい。

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)